

第7回 武蔵野市歴史資料館検討有識者会議 議事録

■ 日 時 平成17年2月28日(月)午後6時～8時

■ 場 所 中央図書館 3F視聴覚ホール

■ 出席者 土屋市長、小池牧子委員、中里崇亮委員、西脇康委員、船崎尚委員、三浦展委員

1. 最終報告書案のまとめ

【事務局】

最終報告書案についてご意見を伺いたい。

【市長】

「武蔵野市に残る資源」と「集客のポイント」について、集中的に議論する必要がある。

【委員】

そもそも歴史資料館をなぜ造るのか、社会背景からの指摘が必要だ。資料が散逸するのを防ぐ、生涯学習をもっと豊かにする、歴史を大事にする等の基本理念がないと、どうして学校教育と連動するのか、体験するのかが、いきなり降って湧いた感じになる。次世代に歴史を伝えていきたい子供たち自身に、昔と違って実体験が不足しているとかの問題意識もあり、最初にそういうことが書かれると、必要性が感じられるのではないか。

【委員】

郷土を愛する、それには過去を知るということも必要だ。

【委員】

街づくりをする場合にも、過去のくらしを知る必要がある。

【委員】

日本中の街が同じようになってきて、日本中から個性と歴史ある郷土愛を自然に育めるような郷土が減っている。新しいタイプの郷土づくり、街づくりをする上でも、こういう施設が必要であるかも知れない。

【市長】

これはある意味でグローバリゼーションということに抗っていく作業なのかも知れない。

【委員】

すごい歴史はないが、武蔵野市は最先端のものもあれば、古いものもある。

【市長】

なぜ歴史資料館が必要かについて物語的に言うと、「私たちのふるさと武蔵野市は、様々な人々が様々な生活をしています。それぞれの愛着を持ってこの街に生き、緑があり、商業があり、ふと立ち止まってみて、わがふるさと武蔵野市はどのような歩みをしたんだろうか、そして今にどうやって繋がってきたんだろうか、とあなたが思った時、この資料館に来てください。」ということになるのでは。

【委員】

例えば行政に関係する人などは、武蔵野市がなぜこんなにいい街になったかを知りたくて来るだろう。そこに資料があればもっと詳しいことが短時間で分かる。

【市長】

公文書館的なことはできる。それぞれの行政のヒストリーがあるのに、突然昔の農具などの展示にいつてしまうから、武蔵野でなくてもどこの資料館だって同じだということになる。基礎的な資源といえるものは、玉川上水、千川上水、井の頭池やお寺などではないか。

【委員】

「おいしい水」という資源もある。

【市長】

それは最近になってからのこと。ただ、三鷹・立川間の連続立体交差がどう立ち上がっていったかなどといった行政上の資源はいろいろある。吉祥寺は立川のように駅前だけに商業施設があるだけでなく、あちこち周辺を歩ける。吉祥寺の楽しい回遊型がどうやってできたのか、その歴史を映像で残すことなども考えられる。

【委員】

市民への対応が非常に大事になる。

【市長】

明治以前の最大の資源は玉川上水と井の頭恩賜公園と千川上水だ。明治以降の最大の資源は鉄道ができたこと。成蹊大学が引っ越してきて、カレッジタウンができたこと。東京の昭和初期のニュータウンとしての吉祥寺、そこに喫茶店があつて、武者小路実篤がやってきたこととか、そういうことが歴史としての資源になる。それに加えて行政史的なものが入ってくる。

【委員】

それは立派なヒストリーだ。「最大の資源」ということと、なぜこんないい街になったのかがキーワードだと思う。

【委員】

新田開発も重要だった。武蔵野市には曲がった道がないのだから。

【委員】

武蔵境の駅ができたことも非常に重要だ。

【市長】

明治22年の境駅に続いて立川もできた。10年後に吉祥寺ができたわけだが、まだ山の手線が丸くなってない頃、それよりも早いのが武蔵境駅だ。

【委員】

東京駅よりも早い。

【市長】

そういうものをデータとして集めて、ここに来ればそれがあり、映像やイベントとしてやるなど、方法は色々あると思う。

【委員】

文学館的なところもあっていいと思う。

【市長】

旧図書館跡に造るとすれば、今の図書館とタイアップして行うこともできる。

【委員】建物間をつなぐとか、そこを古くなったムーバスで走るとか、それを運転できるとか考えると面白い。

【委員】

ムーバスは今の武蔵野市の売りだ。全国的にも行政的にも。

【市長】

話は変わって、吉祥寺には鉄道はあつたけど、駅はなかった。昔は田無が宿場町だった。

【委員】

なぜ、にぎやかな街になったか、みんな非常に興味があるのでうまく説明できればと思う。

【委員】

集客にはいかに説明できるかが必要だと思う。たとえばムーバスについても詳しい話ができるということは非常に大切だ。

【委員】

そういうことを受け継ぐための教育機関的なものをきちっと作らないといけないということだ。

【市長】

話もある程度凝らないと面白くないので、地方でよくあるボランティア解説員を登録してやればいいかもしれない。

【委員】

多摩はどこでも江戸時代までは金太郎飴的な歴史なので、この際、江戸時代のことは前史としてあまり強調しないほうがいいのではないか。

【市長】

確かに武蔵野の民具と府中の民具は変わらない。

【委員】

武蔵野の民具も江戸と明治・大正でそんなに変わらない。政治の時期区分で道具が変わるわけではないし、むしろ江戸時代の延長で昭和 20 年代くらいまでずっとあるわけで、近代の枠の中で十分展示は可能だ。

【委員】

昔、御殿山を管理する人がいて、御殿山の木の葉が落ちるとそれを掃く権利があり、葉を集めて飼料にしたり、堆肥にしてウドの上においていたそう。それで吉祥寺のウドが発展していったという。御殿山は吉祥寺にとって重要だった。

【事務局】

井の頭は去年、平安時代の住居址も見つかっているし、縄文から人が住んでいた。この辺の中心だった人の家だろうということで、祭祀に使われていたであろう土器片が見つかっている。

【委員】

武蔵野の本格的に開発が始まったのは鉄道ができてからだろう。鉄道の後に中島飛行機なども来た。

【委員】

成蹊大学も引っ越してきた。

【市長】

武蔵野の話を人々が面白がって見るかどうか、工夫をしなければならない。入り口としては関心の高いムーバスから入って行って、だんだん郷土史を耕していくというように。

【委員】

これから資料館活動をしていくに当たっての具体的な企画案的なもの、今頂いた話の中から、例えば吉祥寺がどうやってできてきたのかとか、中央線が最初は甲武鉄道で今の中央線文化とどう繋がっていったのかなどについて展開すればリアリティが出てくるかと思う。

【委員】

建設に先がけての一つの企画だ。

【市長】

歴史資料館ができれば、たとえばこういう企画ができる。「甲武鉄道はなぜ今のルートを通ったか」。その前に馬車鉄道案があったようだ。

【委員】

「その時歴史が動いた」式で言えば、武蔵境駅をあそこに持ってきたことはすごいことだ。秋本喜七氏は「俺の土地を使ってくれ」と言ったそうで、武蔵野の歴史を作った人だ。

【市長】

今まで議論してきたもののイメージは出てきた。あちこちへ飛びながらも、論議をしていたものは大体まとまりつつある。

【委員】

先に資料などのカードを作成して、書類上の資料館を作ったらどうか。

【市長】

それを提言の中でしょう。美術館を造る時にその方式をとった。なぜ武蔵野市が美術館を造るのか、いろいろ議論した結果、まず美術館活動をやろうと。企画展をずっとやって、当時美術館はないが美術館活動は盛んになってきた。活動をやっているうちにノウハウが身についてきて、美術館を造った。そうしたやり方で、歴史資料館という活動を実際にやって先行させたらいいかもしれない。だんだんイメージがつかめてくれば、お客様の反応も分ってくるだろう。既存のスイングホールや文化会館の展示室を使って、いろんなことを実際にやってみることがよいと思う。